

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
大阪府中央区瓦町 1-7-1
エスペランサ瓦町ビル 4 階
06-6232-1095

これからの日本政治を考える —コロナ・憲法・維新—

3月11日、関西学院大学・富田宏治教授を招き学習講演会を開催しました。富田教授からは「これからの日本政治を考える…コロナ・憲法・維新」と題して講演がおこなわれました。会場は新装なった「アイクル」で、こけら落としの講演会となり、33名が参加。

今年度の諸取り組み…『憲法改悪を許さない全国署名』、参議院選挙など…のキック・オフの場
にふさわしい、決意と取り組みへの確信を固める場となりました。

【講演要旨】

関西学院大学教授 富田 宏治さん



大阪損保革新懇での講演は4年4か月ぶりです。その半分がコロナ禍の時期でした。そして、ロシアのウクライナ侵攻という事態で、今まさに激動の時期にあります。「3・11」のこの日に、ウクライナでは原発をタ

ーゲットとした攻撃が行われています。いったい何をやっているんだろう。そういう思いが次々と浮かびます。この激動は、日本の政治を変えていく一つのきっかけになると思います。

コロナ禍で見えてきたもの

コロナ禍の中でいろんなことが、人々の気づきとか目覚めとかになって形を結んでいます。新自由主義が格差貧困を生み出しただけでなく、医療を崩壊させ、社会をめちゃくちゃ脆弱なものにしてしまっていた。本当に新自由主義はこんなにやばいものなのかということがわかってきた。特に大阪ではそのことを思い知らされました。

大阪におけるコロナ死は4000人を超えました。東京より実数で多いんですね。人口比で見ると東京の1.5倍です。異常ですよ。吉村知事は一生懸命言い訳をしています。大阪には年寄りが多いからと。しかし、大阪の高齢者人口そんなに

多くないんです。で最後、もうどうしようもなくなって、若い人と年寄りと一緒に暮らしている、そういう家庭が多いからだと言いました。嘘ですね。

コロナの治療の中心を担っているのは公立病院です。そこで、先生方、看護師さんたちが不眠不休で頑張っているわけです。その医療従事者が半減してるんです。全国平均は6.3%減ですが、大阪は50.4%減と半分以下に減っています。また、大阪市には保健所が1か所しかありません。保健師の数は全国平均の6割です。少なくなっている保健師さん達が、家に携帯持ち帰って夜中に鳴りまくる。そういうとんでもない状況でコロナとたたかってるんですね。

それがコロナ死者数日本一を招いた原因です。

愚かな「火事場泥棒」を許さない

国連事務次長の中満泉さんがこう言っています。「国連75年の歴史において、膨大な破壊力を持つ兵器によって安全保障を確保しようとする愚かさが、これほど明らかであったことはない」。核兵器を持つ、それを抑止力とする愚かさをズバリ指摘しています。このコロナ禍で、人の命についてみんなが向き合ってる中で戦争を始めるとは何事か、更に核兵器で脅すとは何事か。やっぱりそういう意識が確実にこの世界を覆ってるんですね。そう簡単にプーチン諦めないかもしれないけども、このままのうのうと許されるなんてあり得ないですよ。それほど愚かさが際立っている。だけど、そういうところに許し難い、愚かな火事場ドロボウが出てきているんですね。

世界の人々がウクライナに平和をと訴え、ロシアの侵略を非難している。そのことを逆手に取って、憲法9条で国は守れるのかと言い出す。「先制攻撃だ、核共有だ」と声高に叫ぶ。

憲法9条は、プーチンのように他国に侵略することを禁じているわけです。日本をロシアのようにしたがつている連中の手を縛るためにこそ9条はあるんです。日本では絶対に「プーチンの出現を許さない」。そのためにも、今度の参議院選挙では「改憲勢力に三分の二を超えさせない」ということを肝に銘じておきたいと思います。

投票率を60%以上に！

こういう危険な連中を、残念ながら私たちはこの大阪でのさばらせている訳です。選挙の結果を見ますと、実は16年前から「3対2対5」っていう現象が起きてるんですね。選挙に行くのは有権者の5割なんです。そして、投票する「5」の内訳が「3対2」で、3が自公に入れ、2が立憲・野党に入れる。残りの「5」は選挙に行かない。で、去年の総選挙も実際「3対2対5」となったんです。

維新に対しても一緒です。維新も実は3割の固定票がある。投票率が5割に留まる限り、絶対に勝ち続ける。この傾向が、結局自公政権をずっと続けさせ、そして維新を大阪ではびこらせているわけですね。この3割の固定票を持ってる維新に勝つためには、1対1の構図にして、投票率を6割に上げなきゃいけない。投票率が6割になっちゃうと絶対得票率30%では維新は勝てません。

住民投票がそれを示しました。1対1の構図でしたね。賛成か反対か。1対1の構図にした上で投票率を6割以上に上げた。1回目は67%、2回目は63%。だから勝てた。これが日本全国では自公で3割ですから、野党共闘で3対3対4、さらに3対4対3に引き上げる。そうすれば世の中は変わるということです。

困っている人に寄り添う政治を

格差と貧困の拡大の中で、明日子どもに何を食べさせたらよいか、そのことに日々自分の思いを向けなければならぬ、もう本当に悲惨なことになっている。大阪府の調査によれば2割の子どもたちが、長い休みに入ると昼ご飯にありつけない。給食がないからですね。給食だけが栄養分になっているような家庭がいっぱいあるんです。全国は7人に1人ですが、大阪府は5人に1人、大阪市は4人に1人です。

そんな中でお母さんたち、ダブルワーク、トリプルワークをやって必死で働いている。そういうお母さんたちがコロナですごい痛手を被ってるんです。学校が休校になる。そうなる仕事休まなきゃいけない。で、この人たちが政治的無関心層って言われる。でも政治的に無関心なんじゃなくて、明日のご飯に関心を向けざるを得ないだけなんです。

だから、子どもをどうして食べさせるか、そのことに苦しんでいる人たちにどう寄り添うかです。例えば、豊中にタダ飯食堂「おかえり」というのがあります。

子どもはいつでも無料で食べられる。上野敏子さんという方がやっておられます。こういう人たちの素晴らしい経験に学び、困っている人たちにしっかり寄り添いながら、政治を変えていく希望を語る、ということが必要だと思っています。

そして、もうひとつ、5割の投票に行かない人のうちの2割ぐらいまでは、かつて民主党政権に期待した人たちです。この人たちにもう一度希望を持ってもらう。だから、野党共闘をしっかりとすすめることが大切なんです。

誰が命をおろそかにし、誰が命を守るのか

大阪では、メディアが結託をし、吉本興業が結託をして、吉村知事の人気を高めるという構図を作ることに成功した。橋下氏、吉村氏を出せば、視聴率が上がり広告料が取れるんですね。つまり貧すれば鈍するんです。吉本がなぜ協力するかって言うとIR利権です。

維新は、新自由主義、自己責任論、市場万能主義に立って、それによって潤うという勝ち組の支持を固めているわけです。これが逆に、維新の大きな限界にもなっています。このコロナ禍の下で、これだけ新自由主義が行き詰ってる中で、それでも新自由主義の旗を掲げるのかと、そこは厳しく問うていかなければならない。

改憲の阻止をし、このコロナ禍を乗り越えながら、誰が命をおろそかにし、誰が命を守るのか、そこをしっかりと争点に据えてたたかい抜いていきたいと思っています。(文責・事務局)

